

# 第3回

## 関市学校規模適正化審議会

### 会議録

(令和5年9月27日)

## 第3回関市学校規模適正化審議会

### 1 日 時

開会 令和5年9月27日（水）午後1時30分

閉会 令和5年9月27日（水）午後4時

### 2 場 所

関市役所 6階 6-1、4会議室

### 3 出席委員

会 長（学識経験者）	江 馬 諭
副会長（自治会代表者）	遠 藤 俊 三
委 員（保護者代表者）	古 川 雅 志
委 員（保護者代表者）	藤 吉 智 志
委 員（幼稚園・保育園代表者）	大 岩 寿喜子
委 員（学校代表者）	花 村 英 泰
委 員（公募）	長 瀬 房 子
委 員（公募）	清 水 宗 夫

### 4 欠席委員

委 員（学校代表者）	澤 田 通 直
------------	---------

### 5 説明のために出席した者

教育長	森 正 昭
教育委員会事務局長	後 藤 勝 巳
教育総務課長	遠 藤 英 治
学校教育課長	平 田 昌 隆
教育総務課課長補佐	廣 瀬 正 則
学校教育課課長補佐	亀 山 雅 之

### 6 傍聴者

2名

### 7 次第

- 1 あいさつ（教育長）
- 2 あいさつ（会長）
- 3 協議事項等
  - （1）「義務教育学校」と「学校選択制」について説明
  - （2）グループワーク
  - （3）発表
- 4 その他
- 5 あいさつ（副会長）

## 8 議事内容（概要）

### ○事務局長

皆様、こんにちは。ただいまから、第3回関市学校規模適正化審議会を開催いたします。

本日は、ご多用のところご出席いただきまして、ありがとうございます。

下有知中の澤田校長が欠席ですので、よろしく願いいたします。

では初めに、森教育長がごあいさつを申し上げます。

### ○教育長

皆様、改めましてこんにちは。

今日は、3回目ということで、お忙しい中、委員の皆様にお集まりいただきありがとうございます。

前回は、6月に実施したアンケート結果と国が定めている学校適正化規模について説明させていただきました。その後、各グループで子ども数の減少が著しい板取地域、洞戸地域、武芸川地域、武儀地域、上之保地域の今後について、いろいろなご意見をいただきました。

本日は、アンケートにもご意見がありましたので、義務教育学校と学校選択制について説明させていただきます。その後、前回に引き続き中学校区ごとで考えていただきながら、また校区を超えることもあるかもしれませんが、グループでご協議いただくという流れになります。どうかよろしく願いいたします。

### ○事務局長

続きまして、江馬会長様からごあいさつをいただきたいと思います。

### ○会長

皆様、こんにちは。

大変お忙しい中、お集まりくださいましてありがとうございます。

今、森教育長様から説明があったように、今日は義務教育学校と学校選択制について知識を深めていただいて、いろいろなご意見に反映していただきたいと思います。また、後半では6つの中学校区について、現状を把握していただいて様々なご意見をいただきたいと思います。どうぞよろしく願いします。

### ○事務局長

ありがとうございました。

それでは、早速ですが、協議に入りたいと思います。

以降の議事進行については、江馬会長様にお願いしたいと思います。

### ○会長

それでは次第に従いまして、最初に、協議事項の1番、義務教育学校と学校選択制について、現状の情報提供をお願いしたいと思います。その上

で、皆様から前回と同様にご意見をいただきたいと思います。

会議終了予定時刻は、4時を目途にしていますので、よろしくお願いたします。

なお、本日は傍聴者がいらっしゃいます。グループワークの時間に入る前まで傍聴していただくこととしたいと思いますので、委員の皆様にはご理解ご了承をしていただききたいと思います。

それでは、協議事項の1番について、事務局から説明をお願いします。

#### ○事務局

(配付資料をモニターに映して説明)

#### ○会長

ご説明、ありがとうございました。

何かご質問は、ございませんか。

#### ○委員

先般の議会でも取り上げられていましたが、小規模特認校という制度は、どのような内容ですか。

#### ○事務局

近くでは、美濃加茂市の小学校でも実施されています。市内の児童が、小規模の特認校へ通うことを希望すれば、通学区域に関係なくどこからでも就学を認めるというものです。

#### ○会長

ありがとうございました。

それでは、ただ今からグループワークに入りたいと思います。このグループワークは、前回と同様にそこで何かを決定するわけではなく、様々な観点から意見交換をする場でございます。また、グループについては、名簿に書かれているとおりの3グループでございます。

今回の地区は、旧関市内の6つの中学校区について、一括して意見交換をしたいと思います。

#### 【グループワーク】

Aグループ：遠藤俊三、藤吉智志、長瀬房子

Bグループ：江馬 諭、大岩寿喜子

Cグループ：古川雅志、花村英泰、清水宗夫

(休憩10分)

#### ○会長

グループワーク、お疲れ様でした。

各グループでの意見をご紹介いただきしたいと思います。

## ○委員

Aグループですが、富野中校区については、アンケートの集計結果からも小中を一緒にするという意見よりも学級の人数を多くしてほしいということで、距離的に富野小が富岡小、富野中が旭ヶ丘中と統合を考えていた方が、希望に合致しているのではないかと。小学校の統合は急いだ方がよい。いつからということは難しいので、今後の検討課題である。

桜ヶ丘中校区では、南ヶ丘小と田原小は、複式にならない。小規模特認校の導入を考えましたが、保護者や地域から子どもたちの人数を多くしたいという意見が出た時には良いが、押しつけることは良くない。このままで。

下有知中校区は、学年2学級というのは、学校運営上、教員の数からしても非常に難しい面があるので、義務教育学校に適しているのではないかとということになりました。

小金田中校区では、やがて2学級になった時には、義務教育学校が適切ではないかと。

旭ヶ丘中学校区は、旭ヶ丘小と富岡小の児童数のバランスが変化してきているので、校区の境界線を西へ移動してはどうか。自治会の区割りと合致しない部分はあるが、子どもたちの通学距離を短くするという点で、もう少し西にしたらどうか。

緑ヶ丘中校区では、稲口地域の子どもたちは、安桜小から桜ヶ丘中に進学しているが、小学校の時分から桜ヶ丘小へ通ってはどうか。区割りについては、小学校区を基にまちづくりをするとしながら、消防団・自治会・投票区などは整理されていないところがあるので、考えていかなければならない。

## ○委員

Bグループです。私は関市の土地勘がなかなかつかめないもので、なるべく統一した方針・基準について記憶に残っていますので、お話ししたいと思います。

特に小学校については、複式になったら統廃合を考えるというのが共通の意見かなと思いました。保護者も望んでおられる。複式には至らないけど1クラス2クラスの学校は、選択制を導入したらいいのではないかと。特に関地域では、隣接する校区を希望できるという一定の条件の中で、ルールや規則を定めたうえで、実施することも一つの方法かなと思いました。また、選択制の導入理由については、保護者に選択の機会を与えることが一つと板取・上之保地区でも何らかの手立てを講じておくことが必要ではないかという意見がありました。

関地域は、学校数が多いので、少なくとも10年先を見据えた抜本的な方針を立てていけると良いという意見がありました。

また、義務教育学校の導入については、白川村の場合は、与えられた条件の中で最善の策としてそれを選択されているが、関地域では、どうしても義務教育学校を必須とする考え方は、なかなか成り立たない。しかし、

選択肢の一つとしてはあり得るのかなと意見交換しました。

## ○委員

Cグループです。子どもたちにとって、多様な学びやいろいろな意見を学びにするには、できるだけ複式にならないというのが、まず根底にあって、小規模校のメリットもあるが、ゆくゆくは数が減っていくので、できるだけ複式にならずに学校教育を進めていくのが良いという話がありました。富野小は早く富岡小と統合することが選択肢の一つかなという意見がありました。義務教育学校の選択肢もありますが、子どもの数は変わらないので、Aグループと同じ考えです。いずれ富野中の統合についても検討していったらどうかという意見がありました。

桜ヶ丘中校区ですが、南ヶ丘小について意見がありました。40年前に倉知小に通っていた経緯もありまして、自治会やふれまち、消防団のつながりがありますので、もう一度倉知へ通ったらどうかという意見がありました。そのうえで、中学校は、緑ヶ丘中か桜ヶ丘中のどちらか選択できるようにしたらどうかという南ヶ丘小校区の対策を考えました。

下有知中校区では、中学校の教科担任制が維持できないので、義務教育学校もしくは小中一貫校で、教員の数を確保しながら進めていけないかという意見でした。

小金田中校区は、ゆくゆくは学年2クラスになるなった時には、義務教育学校か小中一貫校が良いのではないかと。

旭ヶ丘中校区は、当面は維持できますが、旭ヶ丘小の減少が著しいので、富岡小との統合を視野に入れて、その後中学校を検討してはどうかと思いました。

緑ヶ丘中校区は、当面は大丈夫だと思います。前山団地・稲口地域のようにはほかの学校区においても、通学距離にかかわらず自治会や地域のかかわりなどで通学区域が決まっているので、いろいろ難しい面がありますが、ここで一掃して再点検する時期ではないかという意見もありました。

## ○会長

貴重なご意見をありがとうございました。

次回の会議日程ですが、10月24日火曜日の13時30分を予定したいと思いますが、よろしいでしょうか。皆さんご都合よろしいでしょうか。

では、10月24日としますので、よろしく願いいたします。

以上で、本日の内容はすべて終了しました。ご協力ありがとうございました。事務局にお返しします。

## ○教育長

前回の協議いただきました板取川中校区、津保川中校区、武芸川中校区の統合時期の話ですが、一度統合を経験した子どもが、2回目経験することがどうなのか、ということだと思います。その場合ですと武儀小は令和7年まで、武芸小は令和10年まで統合できません。

また、完全複式になるのが、武儀小が令和11年、洞戸小が令和10年、武芸小は令和14年。武芸川中が1クラスになるのが令和12年。

これらのタイミングをきっかけにして、例えば義務教育学校にしていくのかどうなのかも含めて時期を検討していただけると良いのかなと思います。

## ○事務局長

それでは、閉会にあたりまして、遠藤副会長からごあいさつをいただきます。

## ○副会長

皆様、長時間にわたってご協議いただきましてお疲れ様でした。

今のお話のように今後の方向性も出ておりますので、いろいろなご意見をいただきたいと思います。これから先々のことになっていきますので、ぜひそのようなことも考えながら、ご検討いただきたいと思います。

私が一番気になっていることは、小学校区が変更になるかもわかりませんが、校区を基にしながら関市のまちづくりを進めていきますと総合計画にあります。地域のまとまりや区切りについて、市全体が一緒になって進んでいかない。行政の横のつながりの難しさもあると思いますが、古いところで言うと、地域の命・財産を守る消防団組織。これを変えることは難しい。人員の確保も難しい状況です。そう簡単にはうまくいかない課題だと思いますが、みんながそういうことについて考えていけると一番良い。

また学校関係では、地域委員会がありますが、地域課題を自分たちで解決していく。そのために市から予算をいただいている。ふれあいセンターの指定管理者にもなっている。この地域委員会そのものが、地域のトップになり切れていない。学校運営協議会などの会議では、地域委員会の会長さんが呼ばれないことがあります。意識の低さがあり、地域住民にも理解されていないというもどかしい点があります。このようなことを私は思っております。

今後ともよろしく願いいたします。